

北条鉄道交差施設整備の効果等については、朝と夕方のピーク時が 2 往復となり、1 日に 12 便ふえ、乗客は年間 4 万人の増加が見込まれている。この交差施設の整備は、市民の要望であり、ぜひ実現させるべきである。

播磨国風土記事業については、毎年 5 月 4 日に加西能ということで定着しつつある。こども狂言塾は第 6 期生を迎え、子供の中にも伝統を守っていくという流れもある。日本を代表する能楽師、狂言師の方々のおかげで加西能を開催することができ、本物の能・狂言を市民が鑑賞できることは素晴らしいことである。今後も加西の伝承文化として引き継ぐべきものとの観点から、修正案に反対、原案に賛成する。

修正案

反対



森元清蔵 議員



丸岡弘満 議員

修正案

賛成

北条鉄道交差施設整備による利用者の利便性向上は、朝夕の一部の利用者のみで、予測されている年間 4 万人増に疑問がある。市民の身近な足として、赤字負担している鉄道をどう残していくのがよいか、BRT (バス高速輸送システム) も含め長期的な視点で検討すべきである。

地域おこし協力隊事業は、既に退任した 4 名のうち、2 名は目的の定住に結びつかずに、2 名は任期途中で退任しているため、事業継続の必要性が認められない。

播磨国風土記事業は、監査委員からの指摘を踏まえ、今後も継続するならば、支援や開催方法の見直しが必要であり、民間の活力を利用して補助的な立場で支援すべきと考える。

消防基盤整備事業については、平成 23 年に緊急防災減災事業債が設けられ、手厚い財政措置がされているにもかかわらず、地域に寄附として負担を押しつけ、後に交付税措置される緊急防災減災事業債を上手に使っていない。地元負担である自治会の寄附分を加西市が全額負担すべきである。

交差施設を整備し、利用者の利便性の確保は必要だと考える。JR 加古川駅、宝殿駅を利用している通勤客が北条鉄道で通勤し、通勤客増加は見込める。定期客の利用促進を図ることは、定住推進にもつながる。

播磨国風土記事業で子供たちが新作狂言「根日女」を演じることは、加西市の郷土に誇りを持つ子供を育てていくことになる。野村萬斎氏など素晴らしい先生に指導していただけることは、加西市にとって文化の発展である。市長を初め多くの関係者の特別なルートにより費用が抑えられ、イベント開催が継続されている。子供たちの教育指導上いい影響が出ていることに感謝して賛成する。

原案

賛成



長田謙一 議員

公共交通の中で北条鉄道が占めている役割は今も大きく、地域に支えられている鉄道という大きな価値を持っている。行政が積極的に利用者の利便性を図ることは、第三セクターといえども、その大きな出損出資を市が担っている以上、当然だと考える。修正案でこれを一気に削減することに賛同ができない。

ただ、こういった利便性を図ると同時に車両や鉄路の安全確保・保全是、これまで以上に対応すべきであるし、職員の処遇の改善、安心して働ける職場にすることについてももしっかりとした財源手だてを図っていただきたい。

修正案

反対



井上芳弘 議員